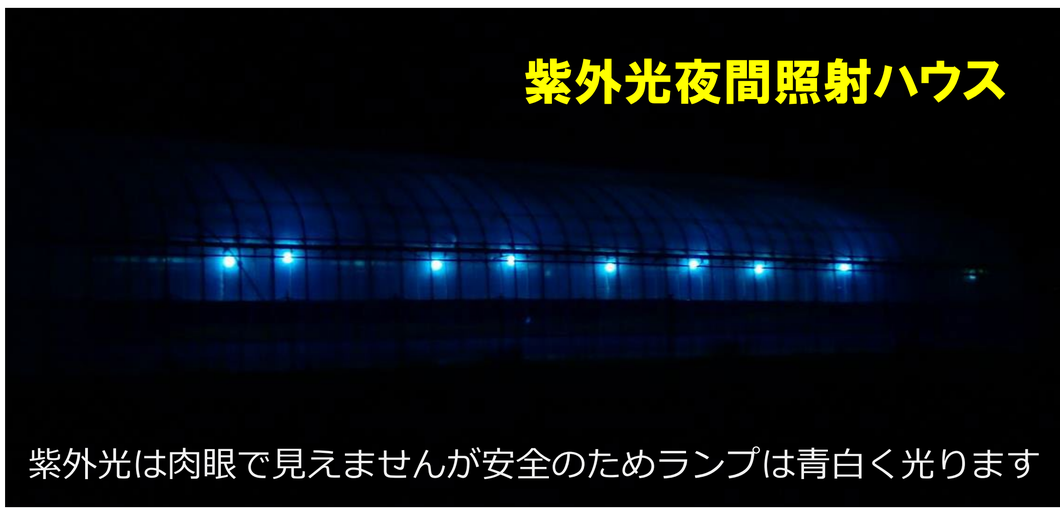
デルフィニウムうどんこ病を紫外光で省力防除



概　要 Abstract

紫外光(UV-B)の夜間照射によりデルフィニウムうどんこ病の発生が抑えられ、薬剤散布回数を減らすことができます。

成　果 Results

紫外光照射により薬剤散布回数を減らしても出荷率は慣行防除と変わりません

試験地 系統	試験区	薬剤 散布回数	発病株率 (%)	発病度	出荷率 (%)	草丈 (cm)
花野技セ	UV-B ＋ 薬剤散布	5	84.2	34.8	100	105
エラータム系	慣行防除	１０	6.7	2.1	100	107
現地ほ場	UV-B ＋ 薬剤散布	2	15.0	4.0	100	124
エラータム系	慣行防除	7	0	0	100	123
現地ほ場	UV-B ＋ 薬剤散布	2	5.8	1.7	100	66
シネンシス系	慣行防除	6	0	0	100	70

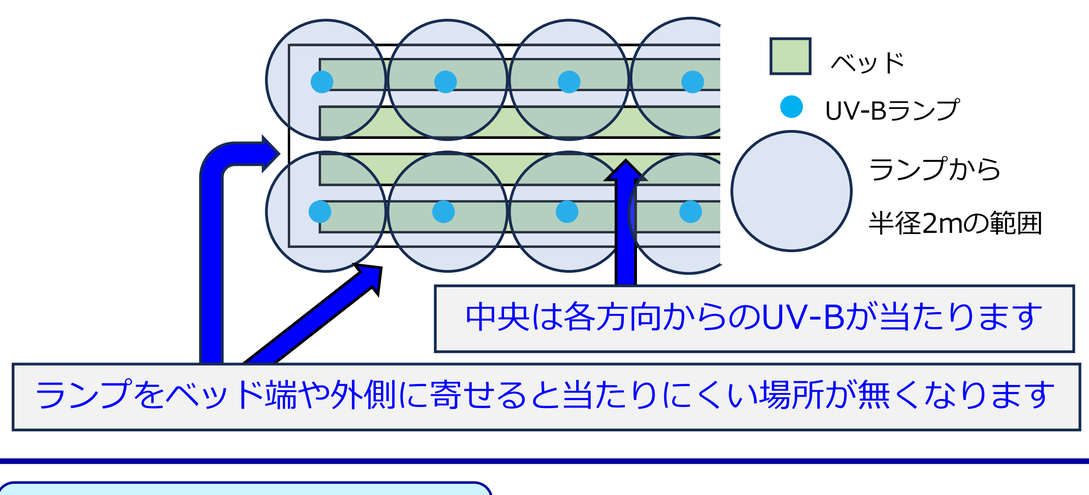
エラータム系品種：「オーロラブルーインプ」、シネンシス系品種：「スーパーシフォンブルー」

紫外光を照射したデルフィニウムの草姿は慣行防除と同じです

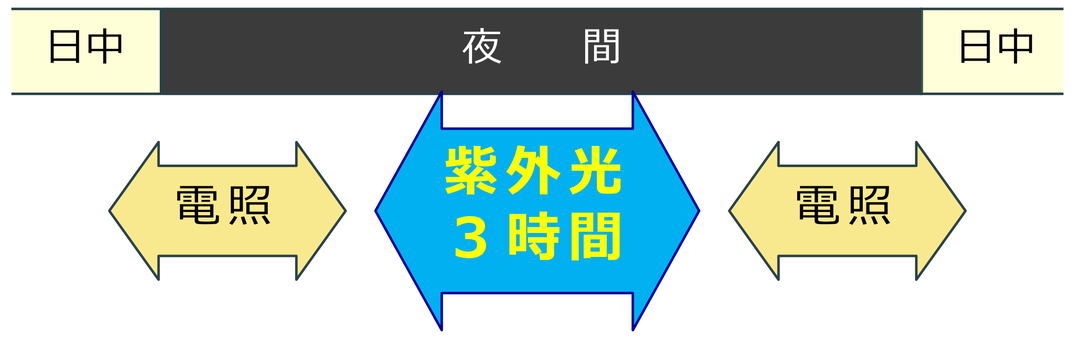
デルフィニウムにおける紫外光（UV-B）の利用方法

紫外光(UV-B)ランプの設置	① 設置間隔は4m以内とする。 ② 設置高は150～165cmを目安にする。 ③ ベッド端・側窓側にも紫外光があたるようにする。
紫外光(UV-B)照射時間	① 毎夜３時間実施する。 ② 定植時から採花終了まで実施する。
薬剤散布	① 定植時から２週間隔の散布が望ましい。
その他	① エラータム系では花穂がランプ近傍(50cm)まで伸長したら焼け症状の発生に注意する。小花にわずかに変色が見られたら慣行防除に切り替える。 ② 早期発病株は抜き取り処分する。 ③ 生育不良株や口ゼット化株は発生源になりやすいので抜き取る。

紫外光ランプの設置例



夜間照射の例



普　及 Dissemination

- デルフィニウムうどんこ病防除の省力化に活用する。
- 紫外光ランプの使用時はメーカーの注意事項を遵守する

連絡先 Contact

花・野菜技術センター 研究部 生産技術グループ
０１２５－２８－２８００（代表）
hsnsysdsi-agri@hro.or.jp